

## 我が家の育成管理について

今回育成について書かせていただいたきっかけは、山下先生からの一言です。

「育成ずいぶん良くなったね～。マネジメント情報に出したいから、〇〇くんの育成について原稿書いてくれないかな～？」

他の農場と比較できないので、正直自分ではピンと来ていませんでした。

ただ普通に毎日やるべきことをやっているだけで、特別なことは行ってないからです。はじめ山下先生から今回のことを言われた時、まさか冗談だろうと思っていましたが、繁殖検診の度に「原稿できた？」と聞かれ、これは書かないといけない・・・と思い、嫁とふたりで書くことにします。読みぐるしい箇所がありましたら、申し訳ありません。

我が家の育成管理について、自分が日ごろ気にして作業している点をまとめて紹介したいと思います。

### ○ 体を汚さない、濡らさない、換気を良くする

当たり前のことかもしれませんが、牛体を汚さない、濡らさないことを基本に作業を行っています。育成の施設はハッチ、旧牛舎、D型とありますが、出生～妊鑑までのハッチ、旧牛舎を毎朝掃除し、そして妊鑑から分娩前1か月くらいまでのD型は汚れ具合を見ながら掃除しています。

Q…毎日掃除する時の具体的な方法・注意点（ハッチ、旧牛舎、D型について）は？

ハッチ・旧牛舎一寝床の汚れた敷料を取り除いて乾いた敷料（麦藁）を入れ、旧牛舎については通路も除糞している（すべて手作業、旧牛舎はパンクリーナがあるので尿溝へ汚物を落とす）

D型一だいたい2日に1回掃除している。寝床部分の糞を通路へ掃除し、タイヤショベルで除糞作業を行い敷料は毎日追加している。

かなり広い範囲ですが、掃除し終えた時の達成感は気持ちが良いです。そして、新しい敷料を多めに入れて牛体を汚さない、濡らさないよう心がけています。

また、換気を良くすることにも気を遣っています。夏は窓全開＋扇風機、冬は窓の開閉で自然換気を行っているので年中閉め切ることはありません。近年はほとんど下痢や肺炎などに罹る子牛はありません。

Q…最近、子牛の病気が無くなった一番の理由は何だと思えますか？

何か一つで問題を解決できるとは思いませんが（全てが関係して今の状況があるから）

その中でも一番大切なことは…何でしょうか？

全てが関連しあっていると思うので、1番大切なことが絞れません・・・。

あえて言うなら、換気だと思います。

○ 新鮮なエサの給与と洗浄の徹底

朝夕の給餌は残滓をキレイに片づけ新鮮なエサを給与しています。草は継ぎ足しではなく毎回新鮮なもの（1番草と2番草を混ぜ併せて）を給与するようにしています。

Q…素晴らしいやり方だと思います！

親の残飼は絶対に給与しないのでしょうか？残飼をやることもたまにはあるのでしょうか？

D型の受胎した育成牛には毎日残飼を給与しています。ハッチや旧牛舎の育成牛には給与していません。

Q…育成の配合は1頭あたりどの位給与していますか？

旧牛舎の育成には1日1頭あたり2kg弱給与しています。夏と冬とで若干の調整、また1番2番草を混ぜて給与しているので配合は少な目かもしれません。

D型は残飼を給与しているので1kg位。残飼の量で配合の給与量を調整しています。

水は定期的に水槽を毎朝洗ってキレイなものを与えるようにしています。冬場はぬるま湯を与えて飲みやすいようにしています。その他洗浄に関しては以下の点を徹底して行っています。

Q…ぬるま湯の給与方法は？…どのようにしてぬるま湯を呑ませているか？

哺乳牛、旧牛舎、D型でのお湯のやり方は？

ハッチ→バケツにぬるま湯（適当）を作って水飲みのバケツに投入する（古い水は捨てる）1日朝夕の2回行う。ちなみに夏場は朝昼夕の3回

旧牛舎・D型→基本的に水が凍ってきたりしたら行う。バケツにお湯を入れて水の入った水槽に投入する。ぬるま湯の程度は適当、凍らない程度。お湯は一輪車で運ぶ。

1日朝夕の2回行う。寒いときは昼も行う。（夏場は4～5回）

Q…初乳の給与方法について

出生後何時間以内に…？ 給与量は？（初回、2回、3回以降）

できるだけ早く飲ませる

初回・2回→飲むだけ飲ませる（初乳）

3回目以降→1日4リットル（子牛の親牛の生乳を1週間飲ませる。それ以降粉ミルクに変更）

Q…初乳を呑まない牛には、ストマックチューブ等で飲ませるか？呑むまで待つか？

チューブは使用しない。飲むまで待つが、ほとんど2回目で飲む

① 哺乳時に毎回ビンを洗剤で洗う→粉ミルクの脂分が哺乳ビンにこびり付くため、お湯だけの洗浄ではなく洗剤を利用して汚れを落とす

Q…アルカリ洗剤だけか？酸性洗剤もミルカーの洗浄の様に使用しているか？

アルカリ洗剤のみ（洗剤名バンクリーン）、酸性洗剤は使用していない。

② ハッチの洗浄→定期的にハッチをひっくり返して洗浄する

Q…ハッチは牛がハッチを出る時に洗浄するのか？

→行っていない。冬場はできない。年3回程度

Q…その時に消毒はやっているか？

→クリアキルを噴霧している

Q…やっているとしたら薬剤を含めてその方法は？

→洗濯機で水洗いし、天日干しする。ハッチに牛を入れる時にクリアキルで噴霧する

○ 毎日の観察を怠らない、カレンダーの有効活用で繁殖管理

朝夕の仕事時はもちろん、昼と夕方搾乳後、1日最低でも4回、作業とともに牛の状況を観察するよう心がけています。

ある程度の月数や体型が出来てきたら発情をチェックしカレンダーに書き込み、牛の状態見て種をつけるようにしています。できるだけ14か月齢までに種を止めたい（それまでに体づくり、卵巣の状態が良くなってはいけませんが）と思っているので、観察とカレンダーの活用は必須となっています。また、近親交配を避けるよう種牛の選定をしています。

Q…1人が毎日4回観察しているのでしょうか？

→基本的に担当者（私）のみ観察

Q…1回の観察時間は？何分くらいですか？

→仕事をしながら朝1時間半、昼10分、夕30分、仕事上がり5分程度  
観察場所は旧牛舎の奥2群のみ、だいたい25頭

Q…牛群の改良という事でGMS（交配プログラム）を利用していますが、その事についておしえて下さい。

2か月に1回ABSの職員の方が体型審査に農場へ来る。我が家の理想の乳牛体型を事前に伝えてあるため、それに対応した種を後日1頭1頭選定して（第3候補まで）書類を送付してくる。種は第1～第3候補の中から自分が選び、授精師へお願いする。

Q…GMSを始めて未経産、成牛にどのような変化を実感しているか？

→乳房のつきは改良されたと思う。体型、バランスも整ってきたように思うがまだ7年目なのでなんとも言えない？

Q…GMSは他の酪農場に推奨できるか？

→できると思う

## ○ 古い施設でも改造して利用、ストレスは小さく

現在利用している施設はハッチ、旧牛舎、D型です。月齢が進む毎に移動し使用しています。以前はハッチ、D型のみでしたが、新築牛舎設立にあたり旧牛舎を育成施設として利用しています。当初、旧牛舎は利用しないつもりでしたが、分娩が増える度に子牛を入れるようになり、使える施設は使ったほうが良いと思い、改造して利用するようになりました。

最初はつなぎで利用していましたが、自由に飲み食い、寝ることができるように群管理になり、飼養環境もサイドパーテーションやネックレールを設置するなど進化してきました。毎日作業しながら効率や動線を考え、今のスタイルに変化を遂げています。

また、ストレスを一気に与えないように以下の点について気を配っています。

- ① 離乳と場所の移動は同時に行わない→ハッチに居る間離乳し、1週間程度経ってから移動する
- ② エサを徐々に変化させる→スターターから育成用配合に変える時は両方混ぜたものをしばらく与える

### Q…具体的にどの位の期間で混ぜる割合の時系列の変化は？

→一粉ミルクは2か月間は1日4リットルのませるが、それ以降徐々にミルクの量を減らしていく（濃度は変えない）。3か月間はスターターのみ、それ以降からスターターに育成配合を混ぜ与え、4か月目で育成配合のみにするようにしている。混ぜる量は適当

- ③ 群移動は集団で行う→食い負けなどがないように4頭位ずつ移動する

すばらしい!!!!

以上のことについて日ごろ気にしながら作業を行っています。

まだやるべきこと、改善しなければならない所など沢山あります。今よりもさらに良くなるよう努力したいと思っています。

### Q…離乳する時の目安は？

→配合の食い込みと飲水量に応じて離乳を行う（だいたい3か月程度）。

今回、原稿を書かせていただいたことをきっかけに、我が家の育成管理について改めて振り返ることが出来ました。山下先生ありがとうございました。